

本格的な3Dによる即確認、スロープの連続、修正、工区分け等々。便利になったREAL4で専用CADの使用割合が増え、入力時間は半分に。

株式会社鐵建

■1998年にS/Fシステムを初導入以来、更新しながら使い続けていただき、2011年11月にいち早くREAL4を導入していただきました。その導入理由を教えてくださいいただけますか？

田中部長：今までのS/Fライナーも3次元はありましたが、すぐに見ることはできず、また、平面的でした。でも、REAL4はリアルタイムで確認でき、本格的な3Dです。ライナーのときと異なり、平面だけでなく、軸面でも入力できるようになったのもいい。使い勝手がいいし、初心者でも入力方法を覚えれば、全体の形が見えるからやりやすいのではと思います。導入することにしたんです。熟練者なら頭の中で形を描けますが、入力ミスをするのはあり、3Dで確認すれば間違いに気づくことができます。

初めてデモを見せてもらったときは、まだスムーズではなかったのですが、将来性があり、いいなと

感じ、2011年に導入することになったんです。

■現在はREAL4、いかがですか？

田中部長：バージョンアップされるたびにどんどん良くなってきている、と実際に感じています。

■今、どう使っておられるのですか？

田中部長：REAL4は最初、2台でしたが、今、メンバーが増えたので8台入れています。私と鎌田課長が入力、提出図面としてまとめると、原寸などをやっていきます。その入力データを使って他のメンバーたちが図面として描き、さらに別の2人が工場への加工指示書のまとめなどに使いながら入力を学ぶ、という形で使っています。

■ライナーに比べてREAL4のどういうところがいいですか？

田中部長：接続する部分について、今までは垂直のものや水平なものしか入らなかったのが、斜め対応、

スロープの連続、階をまたぐ梁などにも対応できるようになったのがいいですね。立体駐車場、屋上駐車場、スロープの多い幼稚園とか、凝った建物の物件が楽になりました。

仮に入れた補助線を基準に、梁とかを一括で移動できるようになったのも修正のときなどに便利です。ライナーのときは、ひとつずつ数値を入れないと移動できませんでしたから。

他にも特殊な取り合いとか、できるようなったことが増えているので、慣れると以前よりかなり使いやすいです。

■専用CADと汎用CADを使う割合は変わりましたか？

田中部長：確実に変わりました。前は専用6-7対汎用4-3。今は8-9対2-1。以前からデータができるだけ活用したいと考えていたので、かなり工夫しながら専用を使っていったんですが、REAL4を使うようになって汎

閉じなければならず、時間のロスがありました。今はアイコンをクリックするだけ。とても便利です。

ね。移動して工場が大きくなり、物件のトン数が大きくなり、量も増え、どうしてもスピードアップしなければならなくなり、新たに女性や鉄骨関係以外の仕事をしていったメンバーが加わりました。そうした人にとってもREAL4はいいのではと思います。導入しました。新しい人たちはまだ納まりなどに詳しくないので入力に長けていますが、だんだん分かってくれば、当初、狙いとしていた導入効果も出てくるのではと思います。

田中部長



■今後について何かあれば。

田中部長：今、ドープチや仮設金物のことなど、要望を出しています。期待しています！

修正も便利に！複雑な物件になればなるほど力を発揮するREAL4

■REAL4を導入して今、どう感じておられますか？

鎌田課長：加工図に少しでも早くまわしたい中で、データ入力の間が半分近くに減ったので、導入して断然よかったです。

■ライナーに比べて便利になったと感じているのはどうですか？

鎌田課長：修正も便利になりましたし、スロープにも簡単にできるようなりました。大きな物件、複雑な物件になればなるほど、REAL4は力を発揮しています。

■工区分けも、ずいぶん楽になりましたね。前は平面的な位置でしか工区分けできなかったのが、今は、この階のここは何工区、と階ごとでも工区分けできるようになり、とても助かっています。現場も、こちらから、工期・工程が把握しやすくなり、トラックの積み込みの実際の仕分けのミスも減りました。現場に搬入してから違っていることが分ると、とても大きなロスになり、それを防げるのはいいですね。

■こういうことにも活用していきたいということがありますか？

鎌田課長：帳票類です。エクセルにも対応しているのなら、それは活用していきたいですね。

■今後の開発に向けて、何かあればぜひ教えてください。

鎌田課長：作図化するスタッフは、紙に出力した時にパッと見て分かりやすいものにするため、寸法線や字の重なりとかを修正するのにまだ多少時間がかかっています。その時間をもっと短縮できるといいですね。ファブさんによっていろいろな図面の書き方があるので、一概には言えないと思いますが、各ユーザーに合わせて作図できる自動CADになるといいですね。

汎用をまったく使わなくてもいい自動CADの開発は難しいことではよく分かっています。でも、できるだけ近づきましょう、それを目指

鎌田課長



スタッフの皆さん

用を使う割合はさらにかなり減りました。

■時間はどう変わりましたか？

田中部長：もちろん物件によって異なりますが、入力時間は半分に短縮できた感じはあります。

■特殊な斜めとかも入るようになります、指示書を出すにしてもデータを伝えるようになり、切板関係もデータを使って自動的に出せるようになったので、手作業でやってきたことが減り、全体的に早くなりました。

■他にも便利な点はありますか？

田中部長：ライナーのときは、2次部材を入力するときはいったん

してぜひ頑張ってください。

また、世間の流れからみてBIMへの対応をせざるを得ないのかな、と思います。そしてそれに対応していくと聞いています。期待しています。頑張ってください！

【ドッドウエル担当者から一言】REAL4をいち早く導入してくださり、さらに数カ月前にも増設して、現在8台を使ってくださっています。

S/Fシステムの原価管理システムも早くから活用して日々きちんと原価管理をされ、鉄骨工事の完了後は見積もりとの比較や分析までしておられて、以前から「すごい！」と感じています。

毎週の全員参加の会議での業務改善の提案など、品質確保に積極的に取り組んでいる(株)鐵建。HP掲載の「検査のこわざ」「すみ肉溶接のこわざ」などは、そうした提案から生まれたもの。



■株式会社鐵建
代表取締役社長 小山慎一
☎375-0043 群馬県藤岡市東平井 1410-4
TEL 0274-40-8040
ホームページ <http://www.tekken-k.com/>
Hグレード
REAL4：導入、TYPE1、2
その他 S/F システム：見積積算、最適取合、原価管理